

小学校教育課程の中の外国語活動

千葉県柏市教育委員会指導課 指導主事 櫻村 雅子

1 はじめに

新学習指導要領の全面実施に伴い、各小学校で外国語活動が実施されていますが、5・6年の担任の先生方から外国語活動を負担に感じる声も漏れ聞いています。その大きな原因が、外国語(英語)の専門ではない、又は専門的に学んでこなかったという不安ではないでしょうか。小学校の外国語活動は、中・高等学校等における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地作りとしての位置づけですが、あくまで小学校の教育課程の一環であり、他の教科と同様、目指す児童像実現への一手段です。先生方には小学校の教師としての自負を持って、児童が学習への意欲を高められるよう、児童とともに外国語を楽しみ、前向きに取り組んでももらいたいと思います。

2 ひと工夫の効用

『英語ノート』の登場で、各校バラバラだった指導に一つの標準ができました。その後“Hi, friends!”に改訂され、付属のDVDにはたくさんのワークシート、カード、映像資料などが収められています。指導案に沿って授業をすれば、年間の指導時数は確保できます。しかし、他教科の指導では目の前の児童の実態に即して授業を組み立てているはずで、普段駆使している授業力や児童に対する観察眼を外国語活動にも生かせれば、もっと楽しく、意義深い活動になります。小学校教

師にとって大きなアドバンテージは、担任として児童をよく知っていること(人間関係や個々人の特徴、流行や興味を持っていることなど)、その年度で教える教科内容や前年度までの既習事項について知っていることです。

“Hi, friends!”をベースにしながらも、他の活動や教材へ一部変更したり、他教科と連携させるなどのアレンジは小学校の先生方の得意なところでは。そのようなひと工夫がある活動の方が、より外国語活動の目標に近づくように思います。

以前、私は別表のような活動を行いました。

単に英語が言えるようにするだけの活動では、英語を習うなどしてよくできる子だけが

外国語活動案(色)

- 1 ユニット名 「色について知ろう」(2時間扱い)
“Hi, friends”との関連
“Hi, friends 1” Lesson 5 What do you like? 色や形の言い方を知ろう
“Hi, friends 2” Lesson 5 Let's go to Italy. 世界の国々 世界の生活
『英語ノート』との関連
『英語ノート1』 Lesson 5 I don't like blue. いろいろな衣装を知ろう
『英語ノート2』 Lesson 6 I want to go to Italy. 行ってみたい国を紹介しよう

- 2 ねらい
・積極的に、英語の説明を聞き取り、理解しようとする。行動に移してみる。
・色や国の言い方を知り、活動の中で英語を使ってみようとする。
・文化や感じ方の違いを知る。・言葉と体験活動・他者理解・協同

3 活動の流れと他教科との関連

第1時

学習活動(時配)	準備・留意点	他教科との関連
1. あいさつ(3分) 2. 虹は何色?(15分) ① 日本・・・7色(赤橙黄緑青藍紫) ② そのほかの国では 英語・・・6, 7色(vibgyor) red, orange, yellow, green, blue, indigo, purple ドイツ・・・5色, ロシア・・・4色 沖縄・・・2色 ③ 色の言い方の練習 ④ song: rainbow	ワークシート① 色鉛筆 色のカード CD	異文化理解 漢字 音楽
3. 色を混ぜてみよう(25分) ① 色の足し算 ② 好きな色を混ぜてみよう	牛乳キャップ(前日の給食時から準備しておく)、タコ糸、マジ	図工(コマ作り、混色の体験)

活躍したり、逆にそのような子にとっては易しすぎて興味を失ったりすることも考えられます。どのレベルの子も、同じように驚いたり、発見したり、楽しんだりできるように、体験的活動を意識して取り入れました。具体的には、ブンブンゴマの作成によって混色の結果を確かめたり、見慣れない地図を使ったりしました。意外な児童がこま回し名人で皆が教えてもらうために列をなしたり、帰国子女でもオーストラリアの上下逆の地図では目的の国が見つけられなかったり、いろいろな「想定外」があり、児童は楽しんでいました。

また、協同という視点から、わざと地図帳を男女ペアに1冊しか与えないような工夫もしました。児童全員に自分の出席番号を英語で順次言わせる課題では、どうすれば速くできるかを自主的に考え、「周りは静かにしよう」「発言する人に体を向けて注視しよう」「大きな声ではっきり言おう」「リズムをとろう」などの意見が出ました。コミュニケーションの大切な要素を、教師の教え込みではなく、児童自ら気付いたということです。そ

の上、声の小さな友だちや緘黙児の周りからは「僕も一緒に言います」という意見が自発的に出て、チームワークが向上し、タイムが縮まったときにはみんなで大いに喜び合う姿が見られました。英語が言えただけでは味わえない達成感だったのではないのでしょうか。



力を合わせて国の場所を探す



見慣れない地図に苦戦

・ブンブンゴマ作り ・何色と何色で何色ができたか発表	ツクペン、千枚通し、 テープ	
-------------------------------	-------------------	--

4. あいさつ (2分)

【第2時】

学習活動 (時配)	準備・留意点	他教科との 関連
1. あいさつ (3分)		
2. 色の復習 (5分)		
① song: rainbow	CD	音楽
② 色のカードを使って		
3. 国旗の色ぬり (10分)	ワークシート②	
① 英語を聞きとりながら色をぬる	色鉛筆	社会
② どの国の国旗か調べる	地図帳	
③ 旗の持つ意味を知る		
4. 国の場所探し (15分)	アメリカの地図	
世界地図の中から指定された国を探す (隣同士ペアワーク)	ヨーロッパの地図	異文化理解 社会
5. Song: Wavin' Flag (5分)	オーストラリアの地図	
(サッカー・ワールドカップ・テーマ ソング)	歌詞カード	時事問題 道徳
南アフリカ開催の意義、ソマリア情勢 母語ソマリ語なまの英語→自信を持 って使っていこう!	今後の外国語活動へ のメッセージ (応援) を送る	
6. ふりかえり (5分)		
7. あいさつ (2分)	ふりかえりシート	

(参考文献: 渋谷徹著『ダメな英語活動 よい英語活動』明治図書
東後勝明 他編, Junior Columbus 21 Book1, 2 光村図書)

4 評価

- ・担任による、関心・意欲・態度面の観察評価
- ・振り返りシートによる自己評価と他己評価

3 学ぶ喜び

児童が英語を使う必然性や、学んだ英語が通じた成就感や達成感、異文化間理解を体験的に学べるように各小学校にALT (外国語指導助手) が配置されている自治体も多いと思います。ただ、ALTに任せきりにするのではなく、担任とティームティーチング、または時に担任主体で授業することで、より意味のある活動となることは明白です。今後、小学校同士が各校の実践を共有して引き出しを増やすこと、そして小中学校が情報を共有して子どもの学びに見通しを持つことが、もっと学ぶ喜びに満ちた活動になる方策ではないかと考えます。